



湿地の巨大ヘリコプター!?

ミカドガガンボ

自然解説員
吉岡明良

まだ、夏にもなっていないのに、家の壁に妙に大きい“カ”がとまっているのを見てぎょっとした覚えはありませんか？

「こんなのに血を吸われたらかなわん」と思いながらよく見てみると、やけに細長くて弱弱しく、憎きヤブカやアカイエカとは少し様子が違います。血を吸うための鋭い口も持っていません。これらの“カ”は大抵、「ガガンボ」という虫の仲間、人の血を吸うことはないようです。餌については不明な点も多いようですが、キリウジガガンボのように、幼虫が植物の根を食べるため害虫とされているものもいます。また、幼虫が湿った環境を好むものが多く、21世紀の森と広場でも水辺との関わりが深い種を見ることができます。

その中でも一際目を引いて巨大なのは「ミカドガガンボ(学名 *Holorusia (Ctenacroscelis) mikado*)」(写真1)、体長は約4cmに及び、赤トンボ(ナツアカネやアキアカネ)にもひけをとりません。ミカド(天皇)という大層な言葉が名前

に付いている虫はミカドアゲハやミカドフキバツタ等何種類かいますが、日本最大のガガンボであるこの種も、その名に恥じない風格を漂わせています。21世紀の森と広場ではマダラガガンボというまだら模様の翅を持った大型のガガンボもよく見ることができますが、大きさでは到底ミカドガガンボには敵いません。もしミカドガガンボがカのように血を吸



写真1 ミカドガガンボ
2006年6月17日撮影

う虫だったら・・・と思うとゾッとします。幸運なことに、ミカドガガンボも他のガガンボ同様、人の血は吸いませぬ。幼虫が水辺の土壤中で生活することも知られています。ただ、これだけ大きなガガンボですから、他のガガンボと比べてずっと広い水辺が良い状態で保たれていないと生き残っていけないかもしれません。ミカドガガンボは良好な湿地が保たれていることの指標種でもあるのです。さすがに絶滅危惧種には指定されていないようですが、京都府や群馬県、三重県のレッドリストには今後の状態を注目すべき種として記載されています。そんな種類が首都圏の松戸市内で見ることができるのですから、中々お得な気分です。

さて、もう一度写真 1 をじっくり見てみてください。おかしなことに気がつきませんか？そう、この虫は翅が 2 枚しかありません。普通の昆虫なら翅は 4 枚あるはずなのですが・・・。実はガガンボとハエ、アブ、カの間は後翅が「平均棍」とよばれる特別な器官に変化してしまっているのです。かなり小さな器官ですのでハエやカでは見づらいかもしれませんが、ミカドガガンボのように大きな虫だと、平均棍をはっきり見ることができます(写真 2)。今の所、この平均棍は、飛行時の体のぶれを検出するという「ジャイロ」の役割を果たし、ハエやカが安定した飛行を行うのに貢献していると考えられています。実際に平均棍を取って



写真 2 ミカドガガンボの平均棍

しまうとハエやカ、ガガンボはうまく飛べなくなってしまう。ハエやアブがヘリコプター顔負けの見事なホバリング(空中静止)を行うことができるのも、平均棍のおかげのようです。おなじく平均棍を持っているミカドガガンボも、さだめし湿地の巨大ヘリコプター、といった所でしょうか。どうもガガンボの間

はハエやアブほどうまくは飛べないようですが。

21世紀の森と広場は、時として、ドクターヘリ用のヘリポートの役割も果たしています。これからもこの公園が人命救助に貢献していくとともに、ミカドガガンボのような自然のヘリコプター？の「基地」としても機能し続けていくとよいですね。

学名は川合禎次・谷田一三編「日本産水生昆虫」(東海大学出版会)より

お知らせ



自然観察舎で行っている湿地の観察会の実施時間等が4月より変更になりました。

湿地の観察会は、自然生態園内にある木道を、自然解説員のガイドを聞きながら散策する観察会です。皆様のご参加をお待ちしております。

実施時間・実施日

実施時間	実施日
10:00～10:30	土曜日
11:00～11:30	日曜日
13:30～14:00	祝日
14:30～15:00	祝日

【定員】 先着25名 (当日受付)

【受付】 自然観察舎 窓口
(開始時間までにお申込下さい)

【電話】 047-340-4140



みんなで来てね！！

シャコバサボテンの手入れ (植え替え、葉摘み)

みどりの相談員
こばやし きよ じ 次
小林喜代次

シャコバサボテンは秋から冬を飾る鉢花です。休眠して冬越した株は4月ころより生長期(4~7月)に入ります。その前に、植替えと葉摘みの大切な作業があります。

植え替え

- ・目的 植え替えは2年に1回くらい。
老化した鉢土の交換
根づまり防止
根の活性化のために行い、生長期に入る準備作業です
- ・時期 4月中~下旬
- ・用土 通気性と排水性のよいもの
(例 シャコバサボテン専用土か、赤玉土小~中粒3 + 鹿沼土小~中粒3 + 腐葉土4)
- ・鉢 プラスチック鉢か化粧鉢、鉢の大きさは今までと同じ大きさから一回り大きいもの)
- ・作業 根鉢を取り出し、土と根の1/3くらい切り落とします。
根が活着するまで2週間くらいは明るい日陰に置きます。

葉摘み(切り戻し)

- ・目的 花が咲いた茎節の先端1~2節を切り戻します。ここから新しい茎節を多く発生させるためです。(花数の増加)
- ・時期 植え替えと同時に
- ・作業 ハサミで切り戻すのではなく、手でちぎり取ります。
株の乱れた葉姿を整えることも忘れずに(枯れた葉、古い葉)

さし芽

- ・目的 摘み取った茎節を利用して、さし芽をしてふやすことができます。
- ・方法 茎節の大きさと、成熟度合いをそろえて3枚ずつ束ねて水ゴケでまいてやります。また川砂に1枚ずつ、さしても発根します。



パークセンター4月・5月の催し物

講 座	日 時	定員	講 師	費 用	受 付
展示 「ふれあい絵手紙展」	平成20年4月1日(火) ～6日(日)	-	絵手紙わの会	無料	-
自然観察会 「森の芽吹きと花の観察会」	平成20年4月13日(日) 10:00～12:00	30名 (要申込)	森林インストラクター 國安 哲郎氏	無料	3/15～
園芸教室 「芝の作り方と管理(実習有)」	平成20年4月16日(水) 13:30～15:00	20名 (要申込)	みどりの相談員 野口宣二氏	無料	4/1～
野草ウォッチング (雨天中止)	平成20年4月20日(日) 10:00～11:30	当日先着 25名	自然解説員 川端祥子氏	無料	当日
園芸教室 「キク「小菊」を作ろう(株分けと挿し木の実習)」	平成20年4月26日(土) 13:30～15:00	20名 (要申込)	みどりの相談員 青島尚祐氏	無料	4/1～
昆虫ウォッチング (雨天中止)	平成20年4月27日(日) 10:00～11:30	当日先着 25名	自然解説員 吉岡明良氏	無料	当日
展示 「春の盆栽展」	平成20年4月29日(祝)	-	社)日本盆栽協会 松戸支部	無料	-
昆虫ウォッチング (雨天の場合は屋内での講座)	平成20年5月10日(土) 10:00～11:30	当日先着 25名	自然解説員 馬場友希氏	無料	当日
バードウォッチング (雨天の場合は自然観察舎で行います)	平成20年5月11日(日) 10:00～11:30	当日先着 25名	自然解説員 今村裕之氏	無料	当日
園芸教室 「コケ玉を作ろう！」	平成20年5月11日(日) 13:30～15:00	30名 (要申込)	みどりの相談員 丸尾三恵子氏	1,000円	4/15～
園芸教室 「家庭菜園 ～夏野菜の手入れ～」	平成20年5月18日(日) 13:30～15:30	45名 (要申込)	みどりの相談員 小林喜代次氏	無料	5/1～
展示 「押し花作品展 ～花たちの語らい～」	平成20年5月27日(火) ～6月1日(日)	-	押し花サークル 桜	無料	-
野草ウォッチング (雨天の場合は屋内での講座)	平成20年5月31日(土) 10:00～11:30	当日先着 25名	自然解説員 加藤裕一氏	無料	当日

申込が必要な講習会につきましては、電話または直接パークセンターまでお申込下さい。
予定に変更が生じる場合がございますので、詳細はパークセンターまでお問い合わせ下さい。



すみれの花咲く季節

自然解説員
加藤裕一

<春を告げる花>

ソメイヨシノが見頃を迎える頃、足元の草に目を向けて散策してみると、愛らしい花を咲かせているすみれの仲間があちらこちらで目に留まることでしょう。すみれの花で本格的な春の到来を感じる、という方も多いのではないのでしょうか。

<すみれの生える場所>

日本にはすみれの仲間が数多く分布していて、なんとすみれ専門の図鑑も出版されているほど多種多様なすみれを見ることができます。海岸の砂丘、水田や畑の周辺、雑木林、湿地、高山の岩場など、生えている環境は実に様々ですが、すみれの種類と量の多さの点では、人里やその周辺の野山が最も豊富だと言っています。時折人の手が入るような場所が、すみれの観察にはお勧めです。

<個性的な花の形>

すみれの花には、細いながらもしっかりとした柄があります。柄は長く伸び、先端近くは急に曲がり、そこに花を1つ咲かせ、花びらは上に2枚（上弁）、左右に1枚ずつ（側弁）、そして下に1枚（唇弁）の合計5枚。また、花を横から観察してみると、花びらの一部が筒状に後ろに突き出していて（これは唇弁の一部です）、とても個性的です。

<すみれの色>

「すみれ色」というと、濃い紫色のことを指しますが、実際のすみれの仲間の花はどうでしょうか。図鑑をぱらぱらめくってみると、確かに紫色を帯びているものが多いですが、その紫色は種類ごとに微妙に異なり、濃いもの、薄いもの、赤みが強いもの、青みが強いもの、など様々であることが分かります。紫色以外では、黄色や白のものがありますが、黄色のすみれのほとんどは高い山や雪国に生育していて、関東平野では残念ながら見る機会がありません。なお、紫色・黄色・白の花いずれの場合でも、ほとんどの場合、唇弁には濃い紫色系の美しい筋状の模様があります。

<果実もユニーク>

ソメイヨシノが咲き終わり、野山が柔らかな緑色で覆われる頃、もう一度すみ

れに目を向けてみると、ややうつむき加減かげんの若い果実かじつが見つかります。果実は徐々に大きくなり、やがて上を向き、ある日ぱかっと3つに開き、ボートのような形の3つの入れ物それぞれに粒揃いつぶぞろの種子を乗せている様子を観察することができます。ここからがさらに見逃せません。3つに開いた果実が時折ときおりぴくっとかすかに揺れるのです。なぜでしょうか？実は、びっしり並んだ種子が、1つ、また1つと勢いよく弾き飛ばはじされているのです。私の経験けいけんでは、すみれが自力で種子を飛ばすこのダイナミックな現象は良く晴れた日に見かけることが多いので、晴れた日が観察日和びよりかもしれません。

…なお、21世紀の森と広場で最もよく見かけるすみれはタチツボスミレとツボスミレでしょう。この2種類のすみれは、全国的に見ても最も普通に見られ、すみれの代表選手といえるすみれです。



【タチツボスミレ】

(写真：群生するツボスミレの様子)

明るい草地、林の縁ふち、明るい林、やや薄暗い林など、様々な場所に生え、ちょうどソメイヨシノと同じ頃に見頃を迎えます。花の色は淡い紫色あわで、優しい色合いです。

【ツボスミレ】（別名 ニョイスミレ）

こちらは湿り気のある場所に生えるすみれです。タチツボスミレと比べると遅く咲き始め、また花はずいぶん小さく、とてもかわいらしいすみれです。色は白なのですが、しゃがんで花をのぞきこんで見ると、はっとするほど鮮やかで繊細な模様が唇弁にあります。

ゴールデンウィークは公園にGO！！

ゴールデンウィークには、2つの大きなイベントが開催されるよ。

みんなで公園に遊びに行こう！！

・緑と花のフェスティバル2008

日時 4月29日(祝) 9:30～15:00(雨天決行)

場所 つどいの広場

・第35回こども祭り

日時 5月3日(祝) 10:00～15:00
(雨天の場合は翌日に順延)

場所 つどいの広場



ご来園の皆様へお願い

安全、快適に公園を利用させていただくため、本公園ではいくつかのルールがあります。

自転車（キックボード含む）の乗り入れ、**ペット**の持ち込み、**テント**設営、**魚釣り**（たこ糸を使ったザリガニ釣りはOK、テグスは不可）などは禁止となっています。

また**動植物の採集**や鳥などへ**エサをやる**こともかたくお断りしています。きれいな花もみんなで採ったらなくなってしまいますし、**可愛い**からと、人間の食べ物を鳥などにあげると自分でエサを捕れず、自然界で生きていけなくなり、かえってかわいそうなことになってしまいます。ルールを守って楽しく過ごして下さいね。

発行日：2008年4月1日

発行：21世紀の森と広場パークセンター

開館：9:00～16:30

月曜休館（祝日開館/翌日休館）

〒270-2252 松戸市千駄堀269

TEL 047-345-8900

<http://www.city.matsudo.chiba.jp/>

- ・ゴミは家までお持ち帰り下さい。
- ・なるべく公共の交通機関をご利用下さい。

